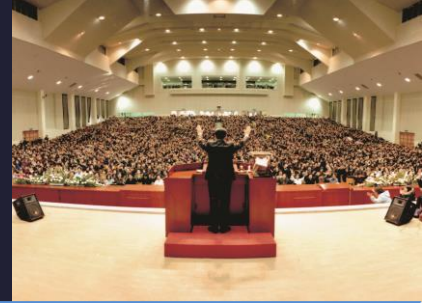


恵みと真理のニュース



2019年09月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

私の人生のすべてを計画して導いてくださる神様の恵みと愛に感謝捧げます。

私の母は20代の頃、恵と真理教会で信仰生活をはじめました。私が体内にいる時から全ての礼拝に休まなく私を連れて参席しました。家がとても貧しくて父親の家庭は代々にイエス様を信じない環境で母一人で信仰生活をして家庭の多くの物を担えました。教会で牧師と執事達がよく私の家に来られ礼拝を捧げながら母の信仰生活に大きい力になってくださいました。私が幼いごろ見た母を慰めてくださった牧師と母の手をついて共に礼拝を捧げた区域長達の姿が今も思い出します。引っ越しをしてから母がここヨンドンポ聖殿で我が教会と主を仕えながら両親が事業を初めて、徐々に事業が盛んになりました。それで、私は幼児ように経済的な苦難を受けなくて小学校生活をよく過ごしていました。習いたいことを習って、食べたいことを食べられて着たい服を着ることが出来たのでとても楽でした。以前のような貧しさとそれによる不便を補償を受けるようでした。これから私の家庭のすべての事が良くなると思いました。

しかし、私が中学生になった後、事業が大変になり始めました。私は大きい問題ではないと少しだけ経験する苦難だと考えました。しかし、時間が経つにつれて状況が悪化されました。

急に私たちの家族が住んでいたアパートが他人に渡されてしまいました。家にあった物もなくなり始めて父と母の絶望する表情を見てから本当に何か大きい問題があるのを悟りました。私が長女だったので私は大きい衝撃を受けてこれからの道を心配しました。

結局 私は学業を中断して親と離れて近くに住んでいる親戚の家で弟と静かに過ごしました。高校生になってからは学校をあちらこちら転校しました。母と私は焦る心で毎日神様に叫び祈りをしました。日々起こることが怖くて担えられなかったです。神様に祈る事し

かなかったです。そうするある日、母が言いました。涙を流しながら祈っているときに聖霊様が限りない慰めて、私があなたを助けてあげよう。”という話を受けたとして大きく喜んでました。

母と私は礼拝がある日は雨が降っても雪が降ってもすべての事を後にして教会に行き神様に礼拝を捧げました。すぐ解決する問題がある時、悔しいことを受けた時、心が焦ったり、落胆するときに教会長の牧師が私たちに必ず必要な慰めと知恵と希望の話をしてくださいました。まるで牧師が私たちのすべての事情を知って話すようでした。牧師の説教が私たちの家族に日々を守るつかいぼうになり力になって苦しみを耐え忍ぶことが出来ました。

ある日は大きく落胆することがあって聖書を開いて御言葉を読みましたが「詩編42編 5節の御言葉を読みました。“なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／なぜ呻くのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう／「御顔こそ、わたしの救い」と。”このように同じ意味をしている御言葉が43編まで3回繰り返しているのを読みました。あ！神様が私に今、絶対に落胆してはいけないと誓っているのだ。神様を見上げ神様に希望を起きなさいと言うのだろう。”と聖霊様が悟りを与えてくださいました。その時、私が流す涙が聖書に濡らしました。もっと切ない心で神様にすべてを預けました。その後、

神様の恵みで複雑な問題が解決されたとえ、小さい家ですが、全ての家族が再び集まる状況になりました。10年が経って、私の家族が日々生活を悩んでいるときでした。神様が想像もしなかった方法で事業の道を開いて下さり、これを始める環境を作ってくれました。すべての家族が驚いたんです。神様が私たちに与えてくれたプレゼントでした。それだけでなく祈りをすればするほど神様が取引先を増やして下さい、職員まで雇用することが出来るようになってくださいました。10年間、私がしてきた祈りが一気に答えられるような感じがしました。このような過程を経験しながら今までは不信者との違いがない父が神様の前に謙遜になり信仰が成長して礼拝に参加するようになりました。わたしの家族は家計の事で礼拝だけ捧げて教会と聖徒達を仕える奉仕の事ができませんでした。神様の恵みで苦難が解消されても相変わらず奉仕を後回しにし

した。すると、また、家庭で苦難が出来始めました。神様が奉仕するように導いている感じでした。“神様！今回の問題が解決されるならすべての家族が熱心に教会で奉仕をします。”と神様に祈りました。そうしたら、本当に神様が知恵と能力を摂理して下さりその問題は解決されました。

私の家族は神様の愛と恵みに最も深く悟り、今年から教会の奉仕をはじめました。父と母は国内宣教会で、私と大人になったばかりの弟は児童部で教師として奉仕しました。奉仕する生活をしながら父は神様に向かう信仰が深くなり礼拝する神聖な楽しさを享受するようになりました。今日の牧師の説教を待ち望んで教会に向かつて、家に帰って来たら御言葉に恵みを受けたことを話してくださいました。日々奉仕にももっと熱心に捧げます。父の信仰生活のため母と私が長く捧げた祈りに答えてくださいました。私と弟は教会学校を仕えながらイエス様が一人一人子供達を愛することと子供たちの信仰が成長する姿を見て大きい恵みを受けました。教会学校の教師職分は本当に恵みと福ある職分であることを悟りました。青年奉仕宣教会の集いも参加して活動するともっと教会を愛するようになって礼拝と説教の恵みを愛するようになりました。

私達の家族が多くの苦難を受ける間、神様が共におられなかったら、時によって助けてくださらなかったならば私たちの家族が生ける希望がなかったはずでした。神様は艱難を通して私たちの家族が主の前に近く進むように導いてくださいました。神様を畏れて愛する福なる人生を生きるように変化させてくださいました。振り返ってみたら10年の時間が私に感謝した時間でした。私は“どんなことでもやれば神様の栄光を先に考えよう。教会をもっと愛しよう。”という心を持つようになりました。

私の人生に關して計画して下さり、摂理して下さる神様の恵みに感謝と賛美を捧げます。“人間の心は自分の道を計画する。“人間は心構えをする。主が舌に答えるべきことを与えてくださる。”(箴言16章9節の御言葉を黙想しながら祈りで神様が私の将来まで委ね預けられた主のことに従順と忠誠を尽くして再び生きるのを決断をします。ハレルヤ！



【信仰コラム】

空しい信仰と誠な信仰

“もしあなたがたが、いたずらに信じないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。”(コリント信徒への第二の手紙 15:2)

洗礼ヨハネはイエス様を指して“また、箕を手に持って、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであろう。”と言いました。私達は自分が持った信仰が空しい信仰であるか、誠な信仰であるかを調べてみるべきです。自分が持った信仰がいかなる状態であるかを調べて確認すべき理由はその信仰が救いに関連されたことであるからです。私達が得る救いの重大性に対してヘブライ書 2 章に記録されています。“こういうわけだから、わたしたちは聞かされていることを、いっそう強く心に留めねばならない。そうでないと、おし流されてしまう”としました。

“聞かされていること”とは救いの福音を指します。“いっそう強く心に留めねばならない”は言葉は聞いて学んだ御言葉を心に留めて固く握るべきだという意味です。“そうでないと、おし流れてしまう”としました。イスカリオテのユダは誠な信仰を持ってなくてお金による誘惑の波におし流されました。パウロ使徒の同労者のデマスは誠な信仰を持ってこの世の楽しみという誘惑の波におし流されました。

“というのは、御使たちをとおして語られた御言が効力を持ち、あらゆる罪過と不従順に対して正当な報いが加えられたとすれば、わたしたちは、こんなに尊

い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。”としました。神様が天地をお造りなさる時は御言でなさったが、罪人を救うためには独り子をこの世にお送りなさって十字架につけられ贖いの死を死なれるように行われました。従って、“こんなに尊い救”と言ったのです。“こんなに”という言葉には無限な内容が含蓄されています。罪の許しを受けます。正しくなり聖なる者になります。神様の子になります。サタンの支配から自由になります。将来に訪れるこの世を治めるようになります。復活します。天国で永遠に生きます。

“この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。”としました。救いの福音が述べ伝えられた経路を話しています。神様がイエスキリストをお送りなさい救いの使役を完遂させられ、聖霊をお送りなさいて権能を福音伝道者を通じて表わされました。従って救いの福音を無視して拒むのは神様を軽蔑することに違いありません。コリントの信徒への第二の手紙 13 章 5 節に“あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエスキリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。もし悟らなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。”としました。自分が信仰の中にいるかを試して確認しなさいとしました。この信仰は神様に向いた信仰であり、また神様の御言葉に対する信仰

です。アベルはこの信仰の中にいました。そうして神様の啓示なさった通りに祭壇を積んで羊の初子の中から、それも最良のものを捧げました。エノクはこの信仰の中にいました。従って神様の御言葉に常に耳を傾けて神様と同行しながら生きました。ノアはこの信仰の中にいました。従って人々の非難とあざ笑いに関係なく箱船を備えました。アブラハムも神様を信じて神様の御言葉を信じるこの信仰の中にいました。私達がこのような信仰の中にいるかを調べて試すべきです。神様の御言葉と背馳した神学や教訓の中にいるのではないかを調べなければなりません。誤った知識と我執という不純物があると容赦なく除去すべきです。イエスキリストがあなたがたの中におられることを知っているか試して確認しなさいと言いました。“イエス様が私の中におられる。”と認識する人から見られる現象があります。主を喜ばせようとする願いと意志があります。福音を述べ伝えようとする意志と熱情があります。主の権能と知恵を積極的に求めて依存します。その反面、できないこともあります。宗教多元主義、宗教混合主義を受け入れることができない福音真理を混雑にさせることができません。教会を潰滅させて聖徒を殺す共産主義者の肩を持ったり、彼らを庇護したり彼らの悪行に対して沈黙することができません。これは神様の品性に正面背馳するからです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム「緑の牧場、清い川」本の語り中」

イエスの再臨と審判を備えよ



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

知恵のある人の一般的な性格の一つは、将来のことを備えることです。例外なくすべての人が必ず直面することになるのがあります。それは、イエスの再臨と最後の審判です。今日は、ほとんどすべての人がイエスの再臨と審判について聞いています。主の再臨が近い着いた証しです。イエスご自身が言われた、「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」(マタイによる福音書 24:14)しました。そして、イエスは、主の再臨と審判について、私たちがどのように備えるかを何回も、いろいろ形で言われました。マタイ 25 章には、3 つのたとえとして連続して言われたことが記録されています。この 3 つのたとえは、イエスの再臨と審判を備える姿勢に対して、3 つの面を扱っています。

第一は、十人のおとめの女比喻です。

マタイによる福音書 25 章 1 節から 12 節までの御言葉です。「そこで天國は、十人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出る行くのに似ている。その中の五人は思慮が浅く、五人は思慮深い者であった。思慮の浅い者たちは、あかりは持っていたが、油を用意していなかった。しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。花婿の来るのがおくれたので、彼らはみな居眠りをして、寝てしまった。夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と叫ぶ声が出た。そのとき、おとめたちはみな起きて、それぞれあかりを整えた。ところが、思慮の浅い女たちが、思慮深い女たちに言った、『あなたがたの油をわたしたちにわけてください。わたしたちのあかりが消えかかっていますから』。すると、思慮深い女たちは答えて言った、『わたしたちとあなたがたに、足りるだけは、多分ないでしょう。店に行つて、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう』。彼らが買いに出ているうちに、花婿が着いた。そこで、用意のできていた女たちは、花婿と一緒に婚宴のへやにはいり、そして戸がしめられた。そのあとで、ほかのおとめたちもきて、『ご主人様、ご主人様、どうぞ、あけてください』と言った。しかし彼は答えて、『はっきり言うが、わたしはあなたがたを知らない』と言った」

この比喻で花婿は、イエス・キリストを意味しておとめは信者を意味します。花婿を迎えて喜びの宴に参加するには、あかりと油を準備しなければならないです。あかりを持ったのは、教会の儀式に参加し、教理を学んで知って、教会の体制と伝統に対する敬意を抱くことを意味します。「油」は、イエス・キリストのための正しい信仰と愛です。イエスの再臨を切に慕って待つて、どんな緊急な行動をすることではありません。あがないの信仰に堅く立って礼拝を中心に生き、主の仕事に努め生きて行かなければなりません。私たちは、非常な行動をしないように主は再臨の正確な時を知らせてくれませんでした。イエスは例えの最後に「だから、目をさましていなさい。その日その時、あなたがたにはわからないからである」(マタイによる福音書 25:13)と結論を結びました。

第二には、タラント比喻です。

マタイによる福音書 25 章 14 節から 25 節までの御言葉です。「また天國は、ある人が旅に出るとき、その僕どもを呼んで、自分の財産を預けるようなものである。すなわち、それぞれの能力に応じて、ある者には五タラント、ある者には二タラント、ある者には一タラントを与えて、旅に出た。五タラントを渡された者は、すぐに行つて、それで商賣をして、ほかに五タラントをもうけた。二タラントの者も同様にして、ほかに二タラントをもうけた。しかし、一タラントを渡された者は、行つて地を掘り、主人の金を隠しておいた。だいぶ時がたってから、これらの僕の主人が帰つてきて、彼らと計算をしはじめた。すると五タラントを渡された者が進み出て、ほかの五タラントをさし出して言った、『ご主人様、あなたはわたしに五タラントをお預けになりましたが、ごらんのとおり、ほかに五タラントをもうけました』

主人は彼に言った、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』。二タラントの者も進み出て言った、『ご主人様、あなたはわたしに二タラントをお預けになりましたが、ごらんのとおり、ほかに二タラントをもうけました』。主人は彼に言った、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』。一タラントを渡された者も進み出て言った、『ご主人様、わたしはあなたが、まかない所から刈り、散らさない所から集める酷な人であることを承知していましたが、恐ろしさのあまり、行つて、あなたのタラントを地の中に隠しておきました。ごらんください。ここにあなたのお金がございます』

イエスと私たちの関係は、主人としもべの関係です。人間は神の被造物です。私たちにあるものは、私たちが管理するように、神様から受けたタラントです。5タラントを受けたしもべと二タラントを受けたしもべは主人に対して正しい認識を持っていました。したがって、主人がタラントを任せていただいた事により感激しすぐに行つて商賣しました。ところが、一タラントを受けたしもべは主人が細かく自分の欲だけ満たすと歪曲された認識を持っていました。彼は主人に感謝した考えや主人を喜ばしようにする考えがなく主人が任せたタラントを地に隠しておきました。帰つてきた主人は、一タラントを受けたしもべの正体を「悪いて怠惰なしもべ」と規定しました。そして、審判するのを「この無益なしもべを外の暗いところに出して追いつて、そこで悲しく泣いて歯をガムのようにあろう」としました

第三には、羊とやぎ比喻です。

マタイによる福音書 25 章 31 節から 46 節までの御言葉です。

人の子が榮光の中にすべての御使たちを従えて來るとき、彼はその榮光の座につくであろう。そして、すべての國民をその前に集めて、羊飼が羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、羊を右に、やぎを左におくであろう。そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御國を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病氣のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである』。そのとき、

正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病氣をし、獄にいたのを見て、あなたの所に参りましたか』。すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。それから、左にいる人びとにも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火にはいつてしまえ。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせず、かわいていたときに飲ませず、旅人であったときに宿を貸さず、裸であったときに着せず、また病氣のときや、獄にいたときにわたしを尋ねてくれなかったからである』。そのとき、彼らもまた答えて言うであろう、『主よ、いつ、あなたが空腹であり、かわいておられ、旅人であり、裸であり、病氣であり、獄におられたのを見て、わたしたちはお世話をしませんでしたか』。そのとき、彼は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。これらの最も小さい者のひとりにならなかったのは、すなわち、わたしになかったのである』。そして彼らは永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生命に入るであろう」

「私の兄弟の中の最も小さい者のひとりに行つたことを」主に行つたものとみなされたこととしました。クリスチャンは御父の子供であるため、すべての兄弟と呼ぶことができます。クリスチャンになる人もそうです。慈善行為を救いと滅びの判断基準として言われたのがありません。未信者をクリスチャンになる人とみなし、福音を宣べ伝え、彼らのため施させ、クリスチャンになった人々のために献身することが判断基準です。すべての奉仕と献身をキリストに関連しなければなりません。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御國を受けつぎなさい」しました。一方、福音を宣べ伝え、主の仕事に献身するのをちっぽけな事だと思つて、教会とクリスチャンを無視する行為は、主を無視するものとみなされます。「のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火にはいつてしまえ」としました

賢明な 5 おとめのように十分に油を予備しなければならないです。5 タラント二タラントを受けたしもべのように、主を喜ばしようにする一心で歳月を惜しんで忠実されるように生きるべきです。神靈的な食べ物と水を食べていないで飢え渴い者、魂が安息しないので貧しく病人、真の自由を持たない人々に同情と憐憫の情を持って福音を伝え奉仕し、聖徒を仕えるに専念することが当然のことにしなければなりません。このような信者は主の審判を受ける時、右側に置く羊に分類されます。皆さん、主の再臨と審判について常に備えて生きて行くのを願っております。